

# 文学研究科

# 日本文学専攻

科目名	学位論文(日本文学)	前期～後期	0 単位
サブタイトル	学位論文の作成		
担当者	安原 順子		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 優れた修士論文または博士学位論文を作成する。</p> <p>[ 授業概要 ] 優れた修士論文または博士学位論文を作成するため、さまざまなアドバイスを行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の構想および進捗状況を報告するための準備を行う。</p> <p>[ 授業計画 ] 毎回、学位論文の構想および論文作成の進捗状況を報告し、それに対して指導教員が適切なアドバイスを与える。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 学位論文の内容と口述試問を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:授業中に指示する。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:授業中に指示する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	学位論文(日本文学)	前期～後期	0 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 博士論文を完成する。</p> <p>[ 授業概要 ] 博士論文完成に向けて、アドバイスをを行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 博士論文の執筆段階に応じて、種々の問題点を整理し、解決法を模索する。</p> <p>[ 授業計画 ] 博士論文執筆段階に応じて、種々のアドバイスをを行う。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 博士論文の評価でもって決定する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	日本文学特論Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 世阿弥の能楽理論を読み、内容を一通り理解できる。</p> <p>[ 授業概要 ] 思想大系『世阿弥・禅竹』に基づいて世阿弥伝書を読解する。特に、それぞれの興味に応じて疑問点、問題点を見出し、その解決に尽力する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] (授業前)世阿弥伝書の注釈史を押さえ、世阿弥伝書の伝本間の相違を認識しておく。 (授業後)それぞれの興味に応じた疑問点、問題点を見つけ、考察を加える。 各回、予習復習併せて4時間以上。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世阿弥伝書を読む①</li> <li>2. 世阿弥伝書を読む②</li> <li>3. 世阿弥伝書を読む③</li> <li>4. 世阿弥伝書を読む④</li> <li>5. 世阿弥伝書を読む⑤</li> <li>6. 世阿弥伝書を読む⑥</li> <li>7. 世阿弥伝書を読む⑦</li> <li>8. 世阿弥伝書を読む⑧</li> <li>9. 世阿弥伝書を読む⑨</li> <li>10. 世阿弥伝書を読む⑩</li> <li>11. 世阿弥伝書を読む⑪</li> <li>12. 世阿弥伝書を読む⑫</li> <li>13. 世阿弥伝書を読む⑬</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 発表、またはレポートにより評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 書籍名:世阿弥 禅竹 著者名:表章, 加藤周一校注 出版社名:岩波書店 ISBN: 9784007305153</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 書籍名:世阿弥伝書用語索引 著者名:中村格編 出版社名:笠間書院 ISBN:978-4-305-20086-0</p>			

科目名	日本文学特論Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 世阿弥の能楽理論を読み、内容を一通り理解できる。			
[ 授業概要 ] 思想大系『世阿弥・禅竹』に基づいて世阿弥伝書を読解する。特に、それぞれの興味に応じて疑問点、問題点を見出し、その解決に尽力する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] (授業前)世阿弥伝書の注釈史を押さえ、世阿弥伝書の伝本間の相違を認識しておく。 (授業後)それぞれの興味に応じた疑問点、問題点を見つけ、考察を加える。 各回、予習復習併せて4時間以上。			
[ 授業計画 ]			
1. 世阿弥伝書を読む①			
2. 世阿弥伝書を読む②			
3. 世阿弥伝書を読む③			
4. 世阿弥伝書を読む④			
5. 世阿弥伝書を読む⑤			
6. 世阿弥伝書を読む⑥			
7. 世阿弥伝書を読む⑦			
8. 世阿弥伝書を読む⑧			
9. 世阿弥伝書を読む⑨			
10. 世阿弥伝書を読む⑩			
11. 世阿弥伝書を読む⑪			
12. 世阿弥伝書を読む⑫			
13. 世阿弥伝書を読む⑬			
[ 成績評価方法 ] 発表、またはレポートにより評価する。			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ] 書籍名:世阿弥 禅竹 著者名:表章, 加藤周一校注 出版社名:岩波書店 ISBN: 9784007305153			
[ 参考書 (ISBN) ] 書籍名:世阿弥伝書用語索引 著者名:中村格編 出版社名:笠間書院 ISBN:978-4-305-20086-0			

科目名	日本文学特論Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  浄瑠璃作品の読み方を深め、浄瑠璃作品における趣向について把握できるようにする。</p> <p>[ 授業概要 ]  まず浄瑠璃作品を読み、浄瑠璃注釈書『難波土産』の注・評を見ていく。その注釈の意図を探り、浄瑠璃作品を読むとはどういうことなのか、また、浄瑠璃読解における注釈のあり方について考える。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  各作品を読み、その内容を共通理解として共有しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.『御所桜堀川夜討』1</li> <li>2.『御所桜堀川夜討』2</li> <li>3.『御所桜堀川夜討』3</li> <li>4.『お初天神記』</li> <li>5.『北條時頼記』1</li> <li>6.『北條時頼記』2</li> <li>7.『北條時頼記』3</li> <li>8.『安倍宗任松浦きぬがさ』1</li> <li>9.『安倍宗任松浦きぬがさ』2</li> <li>10.『安倍宗任松浦きぬがさ』3</li> <li>11.『大内裏大友真鳥』1</li> <li>12.『大内裏大友真鳥』2</li> <li>13.『大内裏大友真鳥』3</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  レポート</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	日本文学特論Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  浄瑠璃作品の読み方を深め、浄瑠璃作品における趣向について把握できるようにする。</p> <p>[ 授業概要 ]  まず浄瑠璃作品を読み、浄瑠璃注釈書『難波土産』の注・評を見ていく。その注釈の意図を探り、浄瑠璃作品を読むとはどういうことなのか、また、浄瑠璃読解における注釈のあり方について考える。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  各作品を読み、その内容を共通理解として共有しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.『国性爺合戦』1</li> <li>2.『国性爺合戦』2</li> <li>3.『国性爺合戦』3</li> <li>4.『苺萱桑門筑紫いえずと』1</li> <li>5.『苺萱桑門筑紫いえずと』2</li> <li>6.『苺萱桑門筑紫いえずと』3</li> <li>7.『苺萱桑門筑紫いえずと』4</li> <li>8.『蘆屋道満大内鑑』1</li> <li>9.『蘆屋道満大内鑑』2</li> <li>10.『蘆屋道満大内鑑』3</li> <li>11.『大塔宮囃鏡』1</li> <li>12.『大塔宮囃鏡』2</li> <li>13.『大塔宮囃鏡』3</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  レポート</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	日本文学特論 Va	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 近代日本文学を作家や作品だけではなく、それを評価する枠組自体を問う視点を身につける。作家の全集を通覧し、その問題点を考察することによって、自分で論点を見つけ、明確な論拠を示して論を展開できるようになることを目標とする。			
[ 授業概要 ] 「全集」は一般的には、ある人の著作のすべてを集めた書物のことである。けれども、全集に収めるべき作品の範囲について見解がまとまっているわけではなく、欠落もあり、談話などの扱いは作家毎に異なる。島崎藤村の全集を中心に、さまざまな作家の全集の違いや問題点を見ることから、日本近代において作家が時代やメディアによってどのように作られてきたのかを考える。授業内容については、受講生と相談しつつ、進めていく。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 扱う作家全集について、凡例、談話の扱い方、全集逸文についての論文などの調査を行う。			
[ 授業計画 ]			
1. 導入			
2. 『藤村全集』第一感想集の問題点			
3. 『藤村全集』第二感想集の問題点			
4. 『藤村全集』第三感想集の問題点			
5. 『藤村全集』第四感想集の問題点			
6. 『藤村全集』第五感想集の問題点			
7. 『藤村全集』第六感想集の問題点			
8. 『藤村全集』童話集の問題点(1)			
9. 『藤村全集』童話集の問題点(2)			
10. 近代文学の全集について(1)			
11. 近代文学の全集について(2)			
12. 近代文学の全集について(3)			
13. 近代文学の全集について(4)			
[ 成績評価方法 ] 発表・質疑応答等(50%)、レポート(50%)			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ]			
[ 参考書(ISBN) ]			

科目名	日本文学特論Ⅴb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 日本近現代文学の調査のしかた、分析のしかたを身につける。当時の社会状況を知り、時代状況をふまえて作品を読む姿勢を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ] 日本近現代文学の作品と、それについての論文を読んで、論を立てる。授業内容については、受講生と相談しつつ、進めていく。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 作品や論文を読んでくる。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 三島由紀夫(1)</li> <li>3. 三島由紀夫(2)</li> <li>4. 三島由紀夫(3)</li> <li>5. 三島由紀夫(4)</li> <li>6. 三島由紀夫(5)</li> <li>7. 三島由紀夫(6)</li> <li>8. 江戸川乱歩(1)</li> <li>9. 江戸川乱歩(2)</li> <li>10. 江戸川乱歩(3)</li> <li>11. 作品論を批判的に読む</li> <li>12. 作品論を批判的に読む</li> <li>13. 作品論を書く</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 発表・質疑応答(50%)・レポート(50%)</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	日本語学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	初級日本語の教え方		
担当者	安原 順子		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 初級日本語教授法に精通することを目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 何冊かの初級日本語教育用教科書を使用し、教案を書き、実際に日本語を教えてみる。初級の教え方に精通することを目指す。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各回の授業についての予習・復習4時間程度。 事前に課した課題をこなし、授業に望むこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初級日本語の教え方①</li> <li>2. 初級日本語の教え方②</li> <li>3. 初級日本語の教え方③</li> <li>4. 初級日本語の教え方④</li> <li>5. 初級日本語の教え方⑤</li> <li>6. 初級日本語の教え方⑥</li> <li>7. 初級日本語の教え方⑦</li> <li>8. 初級日本語の教え方⑧</li> <li>9. 初級日本語の教え方⑨</li> <li>10. 初級日本語の教え方⑩</li> <li>11. 初級日本語の教え方⑪</li> <li>12. 初級日本語の教え方⑫</li> <li>13. 初級日本語の教え方⑬</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 課題(50%)、発表(50%)</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	日本語学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	初中級・中上級日本語の教え方		
担当者	安原 順子		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 初中級・中上級日本語の教授法に精通することを目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 何冊かの初中級・中上級日本語教育用教科書を使用し、教案を書き、実際に日本語を教えてみる。初中級・中上級の教え方に精通することを目指す。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各回の授業についての予習・復習4時間程度。 事前に課した課題をこなし、授業に望むこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初中級日本語の教え方①</li> <li>2. 初中級日本語の教え方②</li> <li>3. 初中級日本語の教え方③</li> <li>4. 中級日本語の教え方①</li> <li>5. 中級日本語の教え方②</li> <li>6. 中級日本語の教え方③</li> <li>7. 中級日本語の教え方④</li> <li>8. 中級日本語の教え方⑤</li> <li>9. 中級日本語の教え方⑥</li> <li>10. 中級日本語の教え方⑦</li> <li>11. 上級日本語の教え方①</li> <li>12. 上級日本語の教え方②</li> <li>13. 上級日本語の教え方③</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 課題(50%)、発表(50%)</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	日本語学演習Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本語を対象としたコミュニケーション論・社会言語学的研究を実践する。</p> <p>[授業概要] この演習では、日本語を対象としたコミュニケーションの研究あるいは社会言語学的研究を履修者が実践し、討論する。興味を持っている事象に関するデータを集め、様々な分析手法で考察し、時には関連のある理論を援用するなどして、新しい事実を発掘することをめざす。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 興味を持っている事象について、関連する論文や図書を熟読し、データを集め、自分が発表する準備をすすめておく(各回、4時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1.コミュニケーション論・社会言語学についての導入 2.コミュニケーションに関する理論1 3.コミュニケーションに関する理論2 4.社会言語学の理論1 5.社会言語学の理論2 6.発表と討論1 7.発表と討論2 8.発表と討論3 9.発表と討論4 10.発表と討論5 11.発表と討論6 12.発表と討論7 13.まとめ</p> <p>[成績評価方法] 討論(50%)、レポート(論文形式)(50%) 授業中の討論の中でフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本語学演習Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 日本語を対象としたコミュニケーション論や社会言語学的研究を実践する。</p> <p>[ 授業概要 ] この演習では、日本語を対象としたコミュニケーションの研究あるいは社会言語学的研究を履修者が実践し、討論する。興味を持っている事象に関するデータを集め、様々な分析手法で考察し、時には関連のある理論を援用するなどして、新しい事実を発掘することをめざす。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 興味を持っている事象について、関連する論文や図書を熟読し、データを集め、自分が発表する準備をすすめておく(各回、4時間程度)。</p> <p>[ 授業計画 ] 1.コミュニケーション論・社会言語学についての発展的導入 2.コミュニケーションに関する理論1 3.コミュニケーションに関する理論2 4.社会言語学の理論1 5.社会言語学の理論2 6.発表と討論1 7.発表と討論2 8.発表と討論3 9.発表と討論4 10.発表と討論5 11.発表と討論6 12.発表と討論7 13.まとめ</p> <p>[ 成績評価方法 ] 討論(50%)、レポート(論文形式)(50%) 授業中の討論の中でフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	日本語学演習Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	岡墻 裕剛		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 漢字文献を精読し、そこに含まれている情報を適切な形で報告する。</p> <p>[ 授業概要 ] 有史以来、日本を含む東アジア漢字文化圏では、漢字で書かれた文献や漢字を研究対象として取り扱った文献が数多く見られる。それぞれの時代や地域の表記の実態を反映したそれらの資料(史料)は、当時の文化を知る上でも有用である。この授業では、受講者が任意の資料を取り上げ、その解読・精読に挑む。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 各自の進捗状況に合わせた予習を必ず行うこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 漢字資料の概要調査1</li> <li>3. 漢字資料の概要調査2</li> <li>4. 調査資料をしぼる</li> <li>5. 比較する</li> <li>6. 調査資料を決定し概要を述べる</li> <li>7. 調査1 先行研究の整理</li> <li>8. 調査2 先行研究の批判</li> <li>9. 調査3 取り扱う範囲の決定</li> <li>10. 調査4 資料の精読1</li> <li>11. 調査5 資料の精読2</li> <li>12. 調査のまとめ</li> <li>13. レポート</li> </ol> <p>※取り扱う文献は各自で決定する。例えば下記のようなものをあげるが、原則的に何でも良い。</p> <p>e.g.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>甲骨文字</li> <li>説文解字</li> <li>玉篇</li> <li>開成石經</li> <li>康熙字典</li> <li>平城宮木簡</li> <li>正倉院文書</li> <li>日本書紀</li> <li>篆隸萬象名義</li> <li>古今和歌集序</li> <li>字鏡</li> <li>類聚名義抄</li> <li>和名類聚抄</li> <li>字鏡集</li> <li>落葉集</li> <li>同文通考</li> <li>小野篁歌字尽</li> <li>大漢和辞典</li> <li>JIS漢字</li> </ul> <p>[ 成績評価方法 ] 調査報告(50%)、レポート(50%)</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	日本語学演習Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	岡墻 裕剛		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 漢字文献を精読し、そこに含まれている情報を適切な形で報告する。</p> <p>[授業概要] 有史以来、日本を含む東アジア漢字文化圏では、漢字で書かれた文献や漢字を研究対象として取り扱った文献が数多く見られる。それぞれの時代や地域の表記の実態を反映したそれらの資料(史料)は、当時の文化を知る上でも有用である。この授業では、受講者が任意の資料を取り上げ、その解読・精読に挑む。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 各自の進捗状況に合わせた予習を必ず行うこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 漢字資料の概要調査1</li> <li>3. 漢字資料の概要調査2</li> <li>4. 調査資料をしぼる</li> <li>5. 比較する</li> <li>6. 調査資料を決定し概要を述べる</li> <li>7. 調査1 先行研究の整理</li> <li>8. 調査2 先行研究の批判</li> <li>9. 調査3 取り扱う範囲の決定</li> <li>10. 調査4 資料の精読1</li> <li>11. 調査5 資料の精読2</li> <li>12. 調査のまとめ</li> <li>13. レポート</li> </ol> <p>※取り扱う文献は各自で決定する。例えば下記のようなものをあげるが、原則的に何でも良い。 e.g. 甲骨文字 説文解字 玉篇 開成石経 康熙字典 平城宮木簡 正倉院文書 日本書紀 篆隸萬象名義 古今和歌集序 字鏡 類聚名義抄 和名類聚抄 字鏡集 落葉集 同文通考 小野篁歌字尽 大漢和辞典 JIS漢字</p> <p>[成績評価方法] 調査報告(50%)、レポート(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本語学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	初級日本語教育用教科書の比較		
担当者	安原 順子		

[実務経験のある教員による授業]

○

[ 到達目標 ]

初級日本語教育用教科書の扱いに精通することを目標とする。

[ 授業概要 ]

何冊かの初級日本語教育用教科書を比較・検討し、日本語教授に際し、初級教科書を十分使いこなせるようになることを目指す。必要に応じ、日本語の文法解説書を読みながら、授業を進める。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]

各回の授業についての予習・復習4時間程度。

事前に課した課題をこなし、授業に望むこと。

[ 授業計画 ]

1. 授業の準備と進め方

2. 『みんなの日本語初級 I 』①
3. 『みんなの日本語初級 I 』②
4. 『みんなの日本語初級 I 』③
5. 『みんなの日本語初級 I 』④
6. 『みんなの日本語初級 II 』①
7. 『みんなの日本語初級 II 』②
8. 『みんなの日本語初級 II 』③
9. 『みんなの日本語初級 II 』④
10. 『初級日本語げんき I 』①
11. 『初級日本語げんき I 』②
12. 『初級日本語げんき I 』③
13. 『初級日本語げんき I 』④

[ 成績評価方法 ]

課題(50%)、発表(50%)

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	日本語学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	初級日本語教育用教科書の比較		
担当者	安原 順子		

[実務経験のある教員による授業]

○

[ 到達目標 ]

初級日本語教育用教科書の扱いに精通することを目標とする。

[ 授業概要 ]

何冊かの初級日本語教育用教科書を比較・検討し、日本語教授に際し、初級教科書を十分使いこなせるようになることを目指す。必要に応じ、日本語の文法解説書を読みながら、授業を進める。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]

各回の授業についての予習・復習4時間程度。

事前に課した課題をこなし、授業に望むこと。

[ 授業計画 ]

1. 『初級日本語げんきⅡ』①
2. 『初級日本語げんきⅡ』②
3. 『初級日本語げんきⅡ』③
4. 『初級日本語げんきⅡ』④
5. 『初級日本語げんきⅡ』⑤
6. 『できる日本語初級』①
7. 『できる日本語初級』②
8. 『できる日本語初級』③
9. 『できる日本語初級』④
10. 『できる日本語初級』⑤
11. 『できる日本語初級初中級』①
12. 『できる日本語初級初中級』②
13. 『できる日本語初級初中級』③

[ 成績評価方法 ]

課題(50%)、発表(50%)

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	日本語学特論Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 文法についての知識を深め、文法理論を理解し、豊富な用例をもとに文法を考える視点を養う。</p> <p>[授業概要] この授業では日本語の諸方言について文法の諸相を論じる。さまざまなデータ(用例)をもとに、言語学の文法理論を援用しながら、隠れたルールを考察する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日本語(現代全国共通語および古典語)の文法と文法カテゴリーの概念をひとつお理解しておくことが前提である。 各回、予習・復習に4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.導入 方言文法の世界 2.記述文法と規範文法 3.文法記述の方法1 形態論 4.文法記述の方法2 統語論 5.文法記述の方法3 運用の問題 6.日本語諸方言の文法 格(1) 7.日本語諸方言の文法 格(2) 8.日本語諸方言の文法 とりたて(1) 9.日本語諸方言の文法 とりたて(2) 10.日本語諸方言の文法 主題(1) 11.日本語諸方言の文法 主題(2) 12.日本語諸方言の文法 ヴォイス(1) 13.日本語諸方言の文法 ヴォイス(2)</p> <p>[成績評価方法] 授業中課題(50%)、レポート(50%) 授業中課題は授業中にフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本語学特論Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]          文法についての知識を深め、文法理論を理解し、豊富な用例をもとに文法を考える視点を養う。</p> <p>[ 授業概要 ]          この授業では日本語の諸方言について文法の諸相を論じる。さまざまなデータ(用例)をもとに、言語学の文法理論を援用しながら、隠れたルールを考察する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]          日本語(現代全国共通語および古典語)の文法と文法カテゴリーの概念をひとつお理解しておくことが前提である。          各回、予習・復習に4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.導入 方言文法の世界</li> <li>2.方言記述文法について</li> <li>3.日本語方言の文法 肯否</li> <li>4.日本語諸方言の文法 授受(1)</li> <li>5.日本語諸方言の文法 授受(2)</li> <li>6.日本語諸方言の文法 アスペクト(1)</li> <li>7.日本語諸方言の文法 アスペクト(2)</li> <li>8.日本語諸方言の文法 テンス(1)</li> <li>9.日本語諸方言の文法 テンス(2)</li> <li>10.日本語諸方言の文法 モダリティ(1)</li> <li>11.日本語諸方言の文法 モダリティ(2)</li> <li>12.日本語諸方言の文法 複文(1)</li> <li>13.日本語諸方言の文法 複文(2)</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]          授業中課題(50%)、レポート(50%)          授業中課題は授業中にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	日本語学特論Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	岡墻 裕剛		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 基本漢字文献について知識を深め、その特徴を記述できる。			
[ 授業概要 ] 近代日本における基本漢字文献を調査し、その特徴や作成目的、対象とする層、包含する漢字集合などについて言及する。文献は2週にわたって検討し、1週目は実際にその文献を読み解いて理解を深め、2週目に関連する先行研究類等の調査・分析を行う。 後期科目の日本語学特論Ⅲbとの直接的な連続性はないが、あわせて履修することが望ましい。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 取り扱う文献について事前によく調べておくこと。			
[ 授業計画 ] 1. ガイダンス 総論 2. 前島来輔[1866]「漢字御廃止之議」 1 3. 前島来輔[1866]「漢字御廃止之議」 2 4. 文部省編[1873]「新撰字書」 1 5. 文部省編[1873]「新撰字書」 2 6. 福澤諭吉[1873]『文字之教』 1 7. 福澤諭吉[1873]『文字之教』 2 8. 郵便報知新聞[1887]「三千字字引」 1 9. 郵便報知新聞[1887]「三千字字引」 2 10. Lay, Arthur Hyde [1895] Chinese Characters for the Use of Students of the Japanese Language 1 11. Lay, Arthur Hyde [1895] Chinese Characters for the Use of Students of the Japanese Language 2 12. 重野安繹[1899]「常用漢字文」 1 13. 重野安繹[1899]「常用漢字文」 2			
[ 成績評価方法 ] 調査報告(60%)、レポート(40%)			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ]			
[ 参考書(ISBN) ]			

科目名	日本語学特論Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	岡墻 裕剛		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 基本漢字文献について知識を深め、その特徴を記述できる。			
[ 授業概要 ] 近代日本における基本漢字文献を調査し、その特徴や作成目的、対象とする層、包含する漢字集合などについて言及する。文献は2週にわたって検討し、1週目は実際にその文献を読み解いて理解を深め、2週目に関連する先行研究類等の調査・分析を行う。 前期科目の日本語学特論Ⅲaとの直接的な連続性はないが、あわせて履修することが望ましい。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 取り扱う文献について事前によく調べておくこと。			
[ 授業計画 ]			
1. ガイダンス 総論			
2. Chamberlain, Basil Hall [1899]『文字のしるべ』(A Practical Introduction to the Study of Japanese Writing.) 1			
3. Chamberlain, Basil Hall [1899]『文字のしるべ』(A Practical Introduction to the Study of Japanese Writing.) 2			
4. 川田鐵彌・佐藤乾三編[1901]『漢字用例』 1			
5. 川田鐵彌・佐藤乾三編[1901]『漢字用例』 2			
6. 安達常正[1909]『漢字の研究』 1			
7. 安達常正[1909]『漢字の研究』 2			
8. 後藤朝太郎[1912]『教育上より見たる明治の漢字』 1			
9. 後藤朝太郎[1912]『教育上より見たる明治の漢字』 2			
10. 日下部重太郎[1933]『現代国語思潮 続編』 1			
11. 日下部重太郎[1933]『現代国語思潮 続編』 2			
12. 大西雅雄[1941]『日本基本漢字』 1			
13. 大西雅雄[1941]『日本基本漢字』 2			
[ 成績評価方法 ] 調査報告(60%)、レポート(40%)			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ]			
[ 参考書(ISBN) ]			

科目名	日本文学演習Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 謡曲作品の読解を通して、研究課題を見つけ出し、その解明のために必要な手立てを案出する。</p> <p>[授業概要] 担当者は、作品の内容を吟味しつつ、それぞれの興味に応じた研究課題を見つけて、その解明に取り組む。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] (授業前) 謡曲作品を選び、作品の背景や研究史を確認する。 (授業後) それぞれの興味に応じた研究課題を見つけ、その解明に取り組む。 各回、予習復習併せて4時間以上。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解演習①</li> <li>2. 読解演習②</li> <li>3. 読解演習③</li> <li>4. 読解演習④</li> <li>5. 読解演習⑤</li> <li>6. 読解演習⑥</li> <li>7. 読解演習⑦</li> <li>8. 読解演習⑧</li> <li>9. 読解演習⑨</li> <li>10. 研究演習①</li> <li>11. 研究演習②</li> <li>12. 研究演習③</li> <li>13. 研究演習④</li> </ol> <p>[成績評価方法] 発表(40%)とレポート(60%)により評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本文学演習Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  謡曲作品の読解を通して、研究課題を見つけ出し、その解明のために必要な手立てを案出する。</p> <p>[ 授業概要 ]  担当者は、作品の内容を吟味しつつ、それぞれの興味に応じた研究課題を見つけて、その解明に取り組む。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  (授業前) 謡曲作品を選び、作品の背景や研究史を確認する。  (授業後) 作品研究論文を読み、それぞれの興味に応じた研究課題を見つけ、その解明に取り組む。  各回、予習復習併せて4時間以上。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解演習①</li> <li>2. 読解演習②</li> <li>3. 読解演習③</li> <li>4. 読解演習④</li> <li>5. 読解演習⑤</li> <li>6. 論文演習①</li> <li>7. 論文演習②</li> <li>8. 論文演習③</li> <li>9. 論文演習④</li> <li>10. 研究演習①</li> <li>11. 研究演習②</li> <li>12. 研究演習③</li> <li>13. 研究演習④</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  発表(40%)とレポート(60%)により評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	日本文学演習Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 京坂興行界における井上播磨掾の位置づけを行なう。			
[ 授業概要 ] 井上播磨掾の正本・段物集の講読を通して、彼の作品の特徴・影響を探り、竹本義太夫・近松門左衛門に至る上方浄瑠璃史について考察する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各作品を読み、その内容を共通理解として共有しておくこと。			
[ 授業計画 ]			
1.『浄土さんたん記井おはら問答』1			
2.『浄土さんたん記井おはら問答』2			
3.『浄土さんたん記井おはら問答』3			
4.『三浦北條軍法くらべ井仁義之武道』1			
5.『三浦北條軍法くらべ井仁義之武道』2			
6.『三浦北條軍法くらべ井仁義之武道』3			
7.『ちんぜいノ八郎ためとも』1			
8.『ちんぜいノ八郎ためとも』2			
9.『ちんぜいノ八郎ためとも』3			
10.『大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい』1			
11.『大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい』2			
12.『大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい』3			
13.『大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい』4			
[ 成績評価方法 ] レポート			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ]			
[ 参考書(ISBN) ]			

科目名	日本文学演習Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 京坂興行界における井上播磨掾の位置づけを行なう。</p> <p>[ 授業概要 ] 井上播磨掾の正本・段物集の講読を通して、彼の作品の特徴・影響を探り、竹本義太夫・近松門左衛門に至る上方浄瑠璃史について考察する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各作品を読み、その内容を共通理解として共有しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.『忍四季揃』1</li> <li>2.『忍四季揃』2</li> <li>3.『忍四季揃』3</li> <li>4.『忍四季揃』4</li> <li>5.『忍四季揃』5</li> <li>6.『忍四季揃』6</li> <li>7.『忍四季揃』7</li> <li>8.『古播磨風筑後丸』1</li> <li>9.『古播磨風筑後丸』2</li> <li>10.『古播磨風筑後丸』3</li> <li>11.『古播磨風筑後丸』4</li> <li>12.『古播磨風筑後丸』5</li> <li>13.『古播磨風筑後丸』6</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] レポート</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	日本文学演習Ⅴa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 日本近現代文学の作品の読み方、分析のしかた、調べ方、論の展開のしかたを習得する。</p> <p>[ 授業概要 ] 夏目漱石の作品を、時代背景、言葉や表現の特徴などに留意して読み、論じる。授業内容については、受講生と相談しつつ、進めていく。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 作品や論文を毎週読んで、それについて書いてくる。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 文献検索のしかた</li> <li>3. 夏目漱石の作品を読む(1)</li> <li>4. 夏目漱石の作品を読む(2)</li> <li>5. 夏目漱石の作品を読む(3)</li> <li>6. 夏目漱石の作品を読む(4)</li> <li>7. 夏目漱石の作品を読む(5)</li> <li>8. 夏目漱石の作品を読む(6)</li> <li>9. 夏目漱石の作品を読む(7)</li> <li>10. 夏目漱石の作品について論じる(1)</li> <li>11. 夏目漱石の作品について論じる(2)</li> <li>12. 夏目漱石の作品について論じる(3)</li> <li>13. 作品を論じる</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 発表・質疑応答(50%)・レポート(50%)</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	日本文学演習Ⅴb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 日本近現代文学の調査のしかた、分析のしかたを身につける。当時の社会状況を知り、時代状況をふまえて作品を読み、論文を批判的に読み、論じる力を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ] 北村透谷の作品についての論文を、批判的に読み、それを踏まえて自分の論を立てる。授業内容については、受講生と相談しつつ、進めていく。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 作品や論文を毎週読み、課題について書いてくる。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献検索のしかた</li> <li>2. 北村透谷の作品について論文を検索する</li> <li>3. 北村透谷の作品についての論文を読む(1)</li> <li>4. 北村透谷の作品についての論文を読む(2)</li> <li>5. 北村透谷の作品についての論文を読む(3)</li> <li>6. 北村透谷の作品についての論文を読む(4)</li> <li>7. 北村透谷の作品について分析する(1)</li> <li>8. 北村透谷の作品について分析する(2)</li> <li>9. 北村透谷の作品について分析する(3)</li> <li>10. 北村透谷の時代と思想(1)</li> <li>11. 北村透谷の時代と思想(2)</li> <li>12. 北村透谷の時代と思想(3)</li> <li>13. 北村透谷の作品について論文を書く</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 発表・質疑応答(50%)・レポート(50%)</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 学位論文の作成。</p> <p>[ 授業概要 ] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 学位論文の作成進度に合わせ行う。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 総合評価による。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	安原 順子		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 学位論文の作成。</p> <p>[ 授業概要 ] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 学位論文の作成進度に合わせ行う。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 総合評価による。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 学位論文の作成。</p> <p>[ 授業概要 ] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 学位論文の作成進度に合わせ行う。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 総合評価による。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 学位論文の作成。</p> <p>[ 授業概要 ] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 学位論文の作成進度に合わせ行う。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 総合評価による。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 学位論文の作成。</p> <p>[ 授業概要 ] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習併せて2時間以上。</p> <p>[ 授業計画 ] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 総合評価による。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	岡墻 裕剛		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 学位論文の作成。</p> <p>[ 授業概要 ] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 学位論文の作成進度に合わせ行う。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 総合評価による。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 学位論文の作成。</p> <p>[ 授業概要 ] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 学位論文の作成進度に合わせて行う。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 総合評価による。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 学位論文の作成。</p> <p>[ 授業概要 ] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習併せて2時間以上。</p> <p>[ 授業計画 ] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 総合評価による。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	安原 順子		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 学位論文の作成。</p> <p>[ 授業概要 ] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 学位論文の作成進度に合わせ行う。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 総合評価による。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 学位論文の作成。</p> <p>[ 授業概要 ] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 学位論文の作成進度に合わせ行う。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 総合評価による。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 学位論文の作成。</p> <p>[ 授業概要 ] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を調べておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 学位論文の作成進度に合わせて行う。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 総合評価による。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	岡墻 裕剛		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 学位論文の作成。</p> <p>[ 授業概要 ] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を調べておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 学位論文の作成進度に合わせ行う。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 総合評価による。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			